

**アクティブ・ラーニング実践研究における
平成30～令和元年度実践地域による
研究成果発表**

**アクティブ・ラーニング &
カリキュラム・マネジメント
サミット 2019**

令和元年7月31日（水）

群馬県教育委員会



実践地域説明

- 1 研究課題**
- 2 群馬県教育委員会の実践研究に係る具体的な取組**
- 3 研究の成果と課題**

研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学校全体で組織的・計画的な授業改善や校内研修を実施するとともに、教員の専門性を高める。

各学校における校内研修を組織的に行い、各教科・科目で育成したい資質・能力を明確にするとともに、その達成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、**生徒の学習過程について研究・開発していく。**

「カリキュラム・マネジメント」の重要性が指摘されていることから、各学校において**教育目標や目指すべき生徒像を明確にし、教員及び生徒を含めた学校全体で目標等を共有しながら、教育課程全体で目指す資質・能力を育成できるよう全体構造を検討する必要がある。**

具体的方策

「群馬県高校生ステップアップサポート事業」の推進

- 各学校で組織的な研究授業や授業研究等の校内研修を実施し、教員の指導方法の専門性を高める取組。
- 先進的な取組をしている県内の教員を、「ステップアップサポート推進研究員」に指名し、他校の教員に向けた公開授業を積極的に実施。

高校生ステップアップサポート事業の概要

教育目標の実現＝生徒に必要な資質・能力の育成



ステップアップサポート事業の主な取組
～授業改善研究の高度化のために～

組織的な校内研修の実施による 学習過程の質的改善

- ・校内研修コーディネーターの指名
- ・教科を越えた学年等での授業研究
- ・教員の指導法そのものでなく、生徒の学びに焦点を当てた授業研究

実践事例の積極的な活用による 教員の専門性の向上

- ・各教科で「推進研究員」を指名
- ・「推進研究員」の積極的な授業公開
- ・実践事例集の作成と全校への配布

具体的な取組内容

① 総合的実践研究

(拠点校2校を研究指定校とし研究を推進する)

② 組織的授業改善研究

(県内公立高等学校等における組織的な授業改善を推進する)

③ コーディネーター研修会開催

(校内研修を充実させるコーディネーターの資質向上を図る)

④ 推進研究員の指名・公開授業

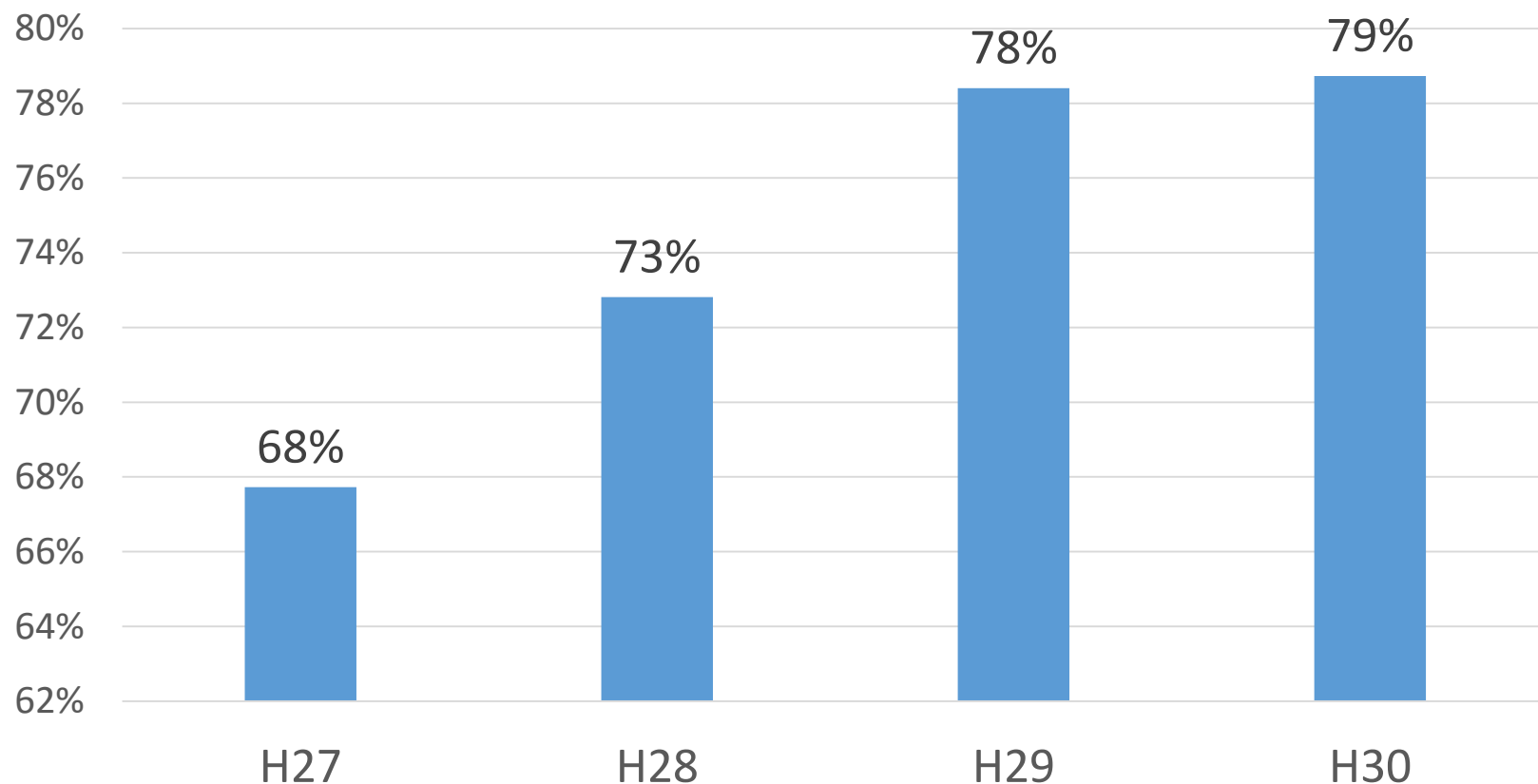
(勤務校で授業実践をしながら学習・指導方法について研究する)

⑤ 実践事例集の作成

(拠点校2校及び推進研究員の授業実践を研究成果として普及する)

研究の成果と課題

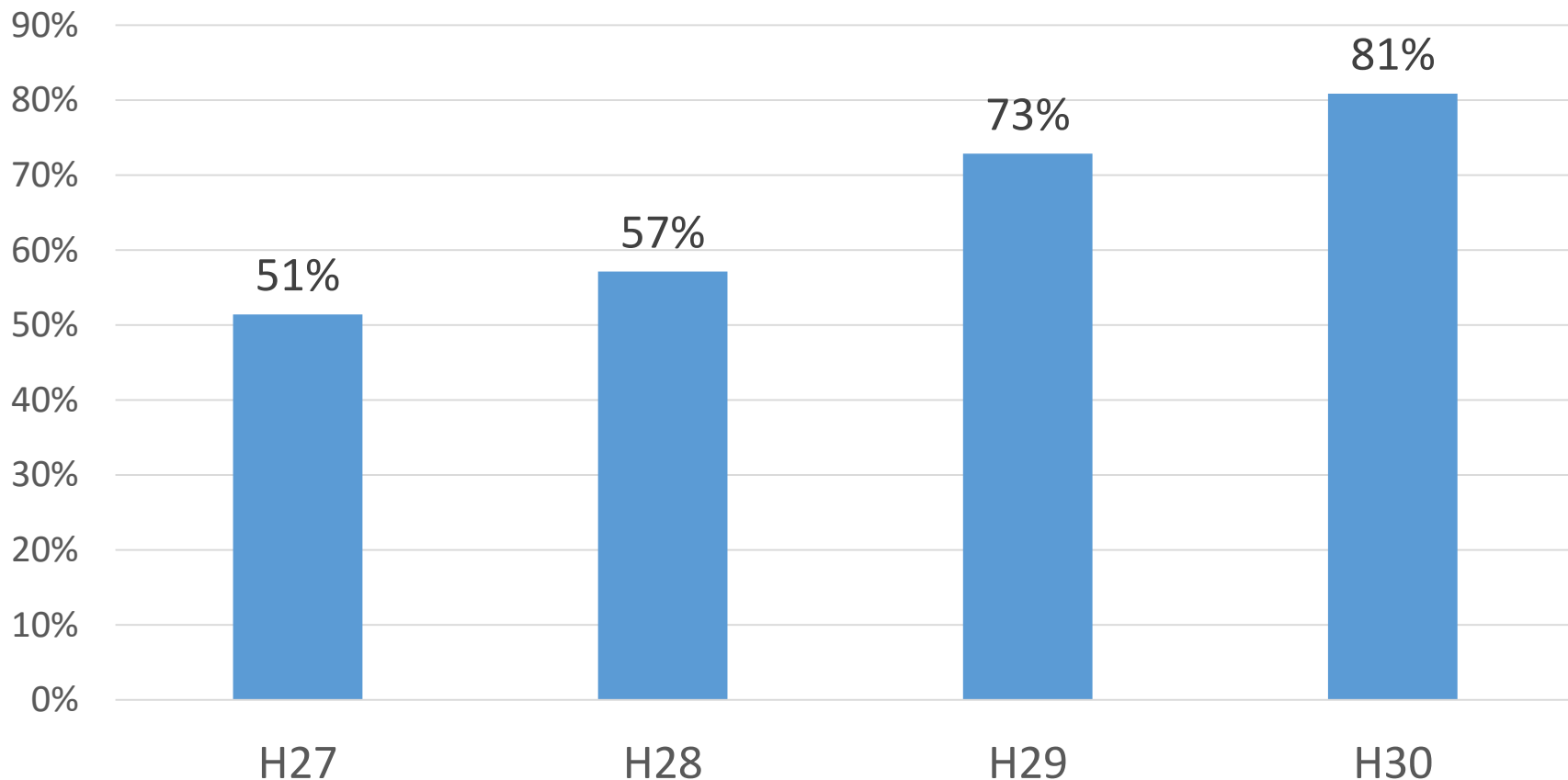
主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を実践している教員の割合



「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の実施状況調査」
(実施:群馬県教育委員会 平成27年~平成30年
対象:群馬県公立高等学校等68校(H27~H29は70校))

研究の成果と課題

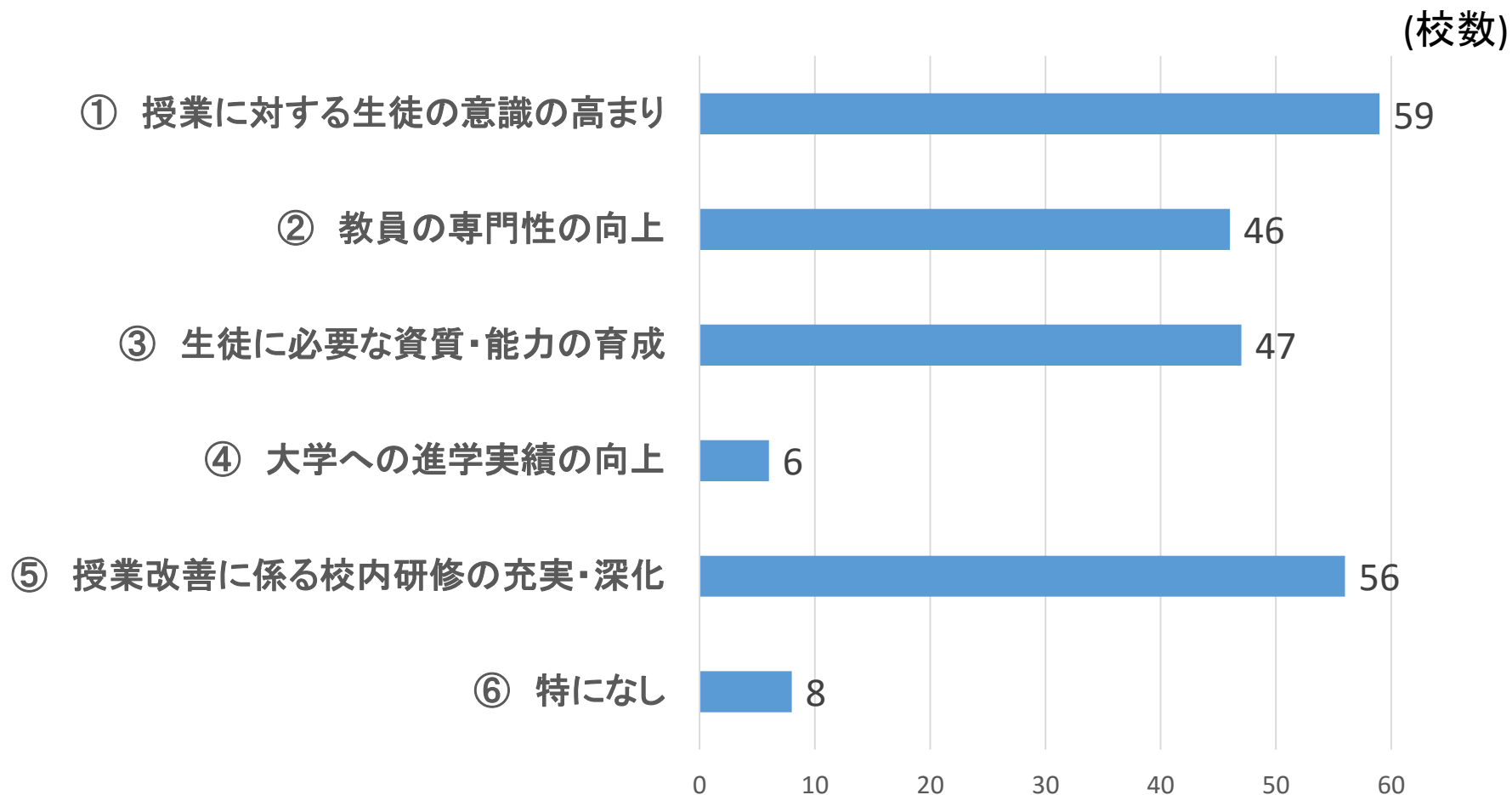
ALの視点に立った授業改善を実践している教員の割合が70%以上の学校



「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の実施状況調査」
(実施:群馬県教育委員会 平成27年~平成30年
対象:群馬県公立高等学校等68校(H27~H29は70校))

研究の成果と課題

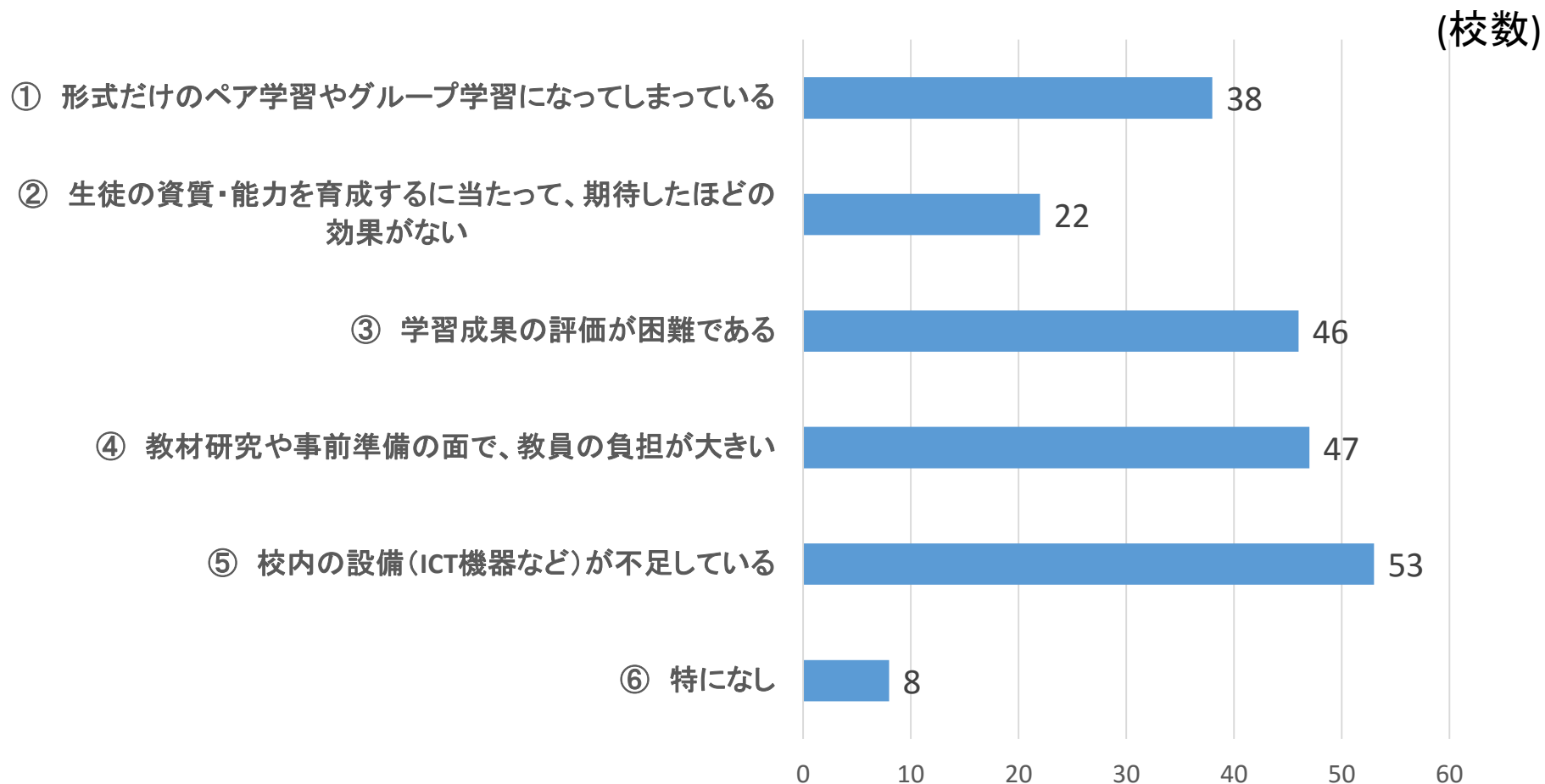
授業改善研修でどのような効果を得られているか(複数回答可:H30実施)



「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の実施状況調査」
(実施:群馬県教育委員会、対象:群馬県公立高等学校等68校)

研究の成果と課題

どのような課題や問題点があるか(複数回答可:H30実施)



「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の実施状況調査」
(実施:群馬県教育委員会、対象:群馬県公立高等学校等68校)

教科等の本質的な学びを踏まえた
主体的・対話的で深い学び
(アクティブラーニング)の視点からの
学習・指導方法の改善の推進

群馬県立松井田高等学校

学校概要

- 全日制普通科

- 生徒数

	1学年	2学年	3学年	合計
男	43	42	37	122
女	34	24	18	76
計	77	66	55	198

- 教職員数

校長	教頭	教諭	養護 教諭	事務 職員	司書 専門員	公仕
1	1	19	1	3	1	2

- 進路状況

	進学	就職	その他
平成29年卒	28	36	4
平成30年卒	33	27	2
平成31年卒	31	31	5

生徒の特徴

400日以上欠席
1学年 4名
2学年 2名
3学年 2名

➤ 中学校時代多欠席(100日以上)の割合

H29→33% H30→28% R1→30%

➤ 配慮を必要とする割合

H29→17% H30→13% **R1→24%**

課題解決に向け、

全職員で多様化する生徒への
指導に**取り組む**

育てたい生徒像

生徒が抱えている問題

- ・不安感
- ・自己肯定感が低い
- ・学習に自信がない

『社会的・職業的自立に向けて必要な基礎学力を身に付け、他者と協力的に関わりながら課題解決に向けて取り組める力とともに、自分だけでなく他者も大切にし温かみのある心で思いやり行動できる生徒の育成』

取組内容

主体的・対話的で深い学び

生徒の学習改善

学びの基礎診断

学習評価

授業アンケート

教員の授業改善

相互授業参観
(シート)

指導案

UDL

学習評価

学びの集団の育成

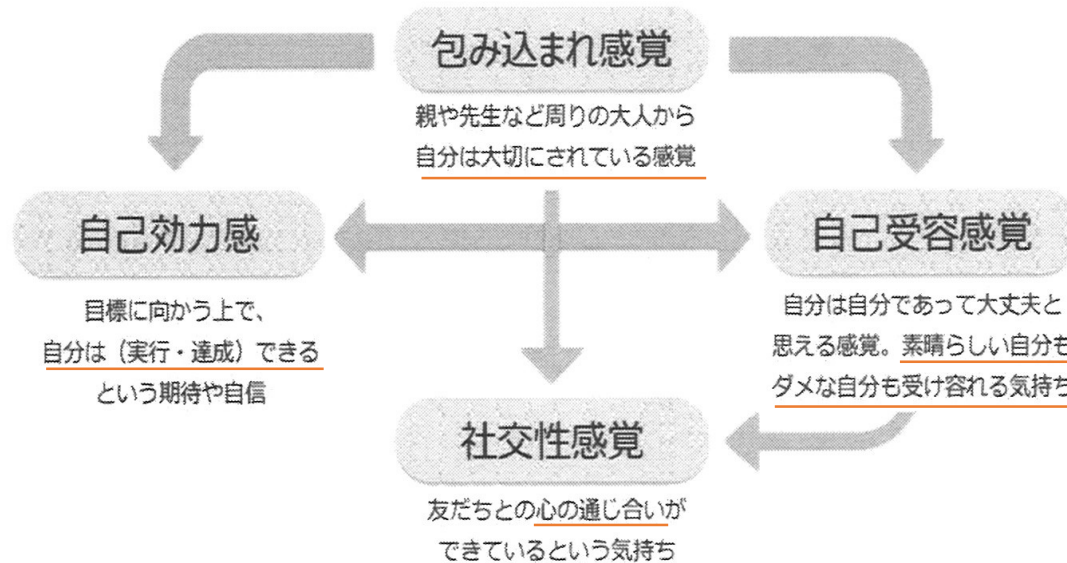
ハイパーQU

SST

育てたい生徒像

育てたい生徒像を共有

全体研修①: 自己肯定感についての気づきを共有



自己肯定感四つの構成要素

【感想】

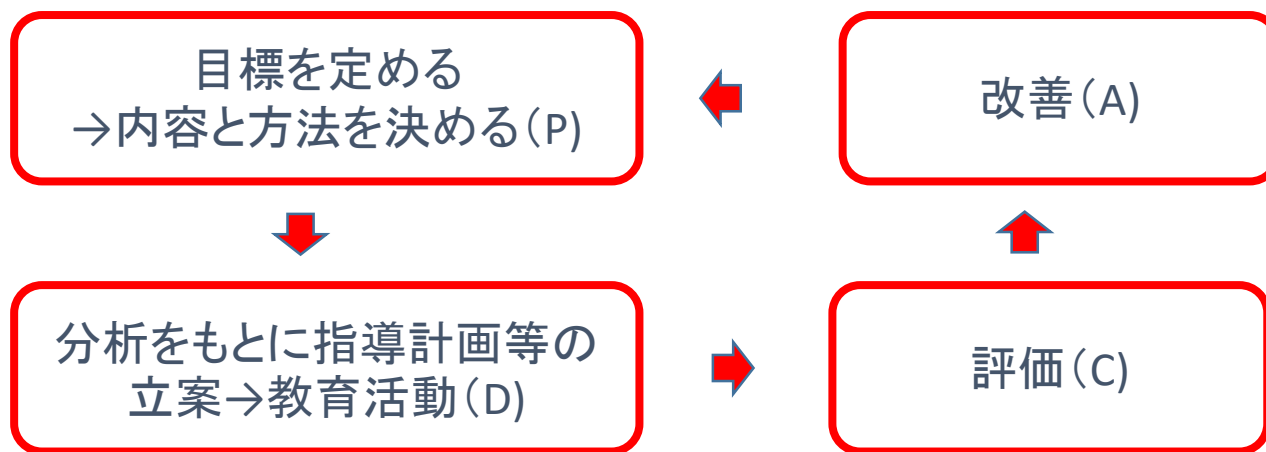
- ・意見交換できる良い機会となった
- ・心で感じていたことを共有できた
- ・難しい問題が多い

【日常生活の中で】

- ・あいさつ、HRや授業で呼名
- ・細かな声かけ
- ・この授業なら頑張れそうと感じられるような教材作り
- ・SOSが出せる環境づくり 等

学びの集団の育成～QUの活用

全体研修②：集団アセスメントとその活用 安定した学級集団を育成するために



※生徒理解の方法：観察法、面接法、調査法

➡ ハイパーQU実施

学びの集団の育成～QUの活用

全体研修③:ハイパーQUの活用について

【結果】

教員との関係が強い

友人関係が閉じられている

進路意識が薄い

【授業への活用】

授業の中にグループ活動導入

グループは意図的に作る

関わりのスキルも一緒に実施

取組内容

主体的・対話的で深い学び

生徒の学習改善

学びの基礎診断

学習評価

授業アンケート

教員の授業改善

相互授業参観
(シート)

指導案

UDL

学習評価

学びの集団の育成

ハイパーQU

SST

育てたい生徒像

授業のユニバーサルデザイン化

➤教材の視覚化



見やすい板書や時間の掲示

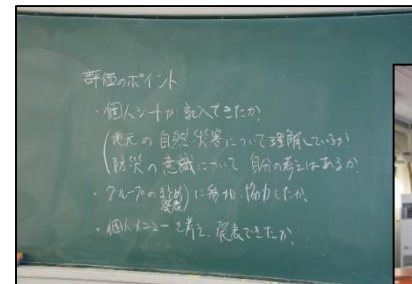


セルフチェッカー利用

➤授業・教室の構造化

- ・タイムマネジメントをする
- ・リフレクションさせる

(生徒のPDCA)



授業の流れや
評価のポイント提示



余分な情報を排除

➤授業の中での協働化

- ・ルールを守る
(安心して意見が言える環境作り)
- ・温かな言葉を大切にする



授業見学について

～授業見学シートの見直し～

授業見学シート

見学者氏名 _____

日時：__月__日()__限

科目名(担当者)：「 _____ 」(_____ 先生)

生徒の活動を見て、ココが…

すごい! 😄	もったいない! 😞
どうなんだ～ 😓	自分の授業で使えそう 💡

感想・アドバイスなど

授業見学後、田村まで提出してください。

- 参観シートを作成(P)
- 授業参観(D)
- 授業者へフィードバック(C)
- 授業改善へ(A)

自己評価の工夫～授業アンケートの見直し～

このアンケートは、よりよい授業を行うためにみなさんの意見や感想を聞くものです。
質問をよく読んで、率直に回答して下さい。(みなさんの成績に影響することはありません。)

I 次の各項目について、A・B・C・Dのいずれか1つにそれぞれOを付けて下さい。

➤ 生徒の振り返りを意識

➤ アンケート結果を次の授業に活かす

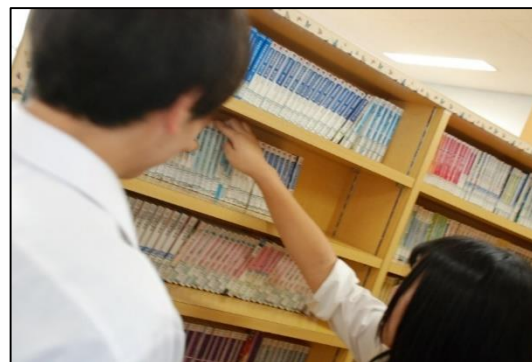
A そう思う B だいたいそう思う C どちらかというそうは思わない D そうは思わない

	項 目	A	B	C	D
1	先生の話し方は、はっきりしていて聞きやすい。				
2	先生の説明はわかりやすい。				
3	先生の黒板に書いた文字や資料は見やすい。				
4	授業の進み方は Aちょうど良い B遅い C少し早い D早い				
5	授業の内容は Aちょうど良い B簡単 Cやや難しい D難しい				
6	授業中、自分から学習に取り組んだ。				
7	先生の話や友達の意見をしっかり聞くことができた。				
8	授業の中で自分の考えを持つことができた。				
9	自分の考えをまとめて発言することができた。				
10	授業で学習した内容に興味を持てた。				
11	休まず授業に出席している。				
12	授業の受け方のマナーを守って学習に取り組んでいる。				
13	授業中、わからないことは聞きやすい雰囲気がある。				
14	課題の量はちょうどよい。				
15	課題・提出物は期限までに提出している。				

図書館を活用した授業

図書館活用のメリット

- グループ学習がしやすい場所的な空間
- 資料を揃えやすい(相互貸借制度利用可能)
- 司書等との協働が可能



各教科の授業改善状況

- 昨年度実施した授業の工夫
 - ✓ 授業の目当ての提示
 - ✓ 振り返り
 - ✓ 取組内容を生徒に考えさせる
 - ✓ タイマーや画像などの視覚化
 - ✓ 時間の設定
(書く、聞く、考える、話す)

取組内容

主体的・対話的で深い学び

生徒の学習改善

学びの基礎診断

学習評価

授業アンケート

教員の授業改善

相互授業参観
(シート)

指導案

UDL

学習評価

学びの集団の育成

ハイパーQU

SST

育てたい生徒像

授業研究会

学年ごとに授業研究→全体共有



授業見学、授業研修の時間を確保

指導案

〇〇科「〇〇〇〇（科目名）」 学習指導案及び実践報告（例）

平成〇年〇月〇日（〇）〇校時（〇：〇～〇：〇）
 〇〇〇科〇年〇組（〇〇〇〇コース） 〇〇名
 授業者 〇〇立〇〇〇〇学校 教諭 〇〇〇〇
 授業場所 〇〇〇〇教室

- 1 主題（指導内容）
- 2 生徒の実態
- 3 本時のねらい → 授業内容や課題設定のねらい
- 4 本時の評価規準 → 本時の目標に応じて（1つ又は2つの）観点と評価規準を記載する。

思考・判断・表現

- ・なぜ～なのかを考え、グループ内の議論において自分の考えを表現することができる。
- ・なぜ～になったのか、〇〇から判断し、ワークシートにまとめることができる。

評価方法（発問、ワークシート）

- 5 展開 → 生徒の活動の様子（予想される反応、発想、気付き）、教員の支援を具体的に記載する。生徒が取り組む課題を明記する。
 - ・生徒の主体的な学習のための配慮事項や指導方法はどのようなものか。
 - ・グループ学習やペア学習における、指導の方針は何か。
 - ・教育機器や教具、資料などの活用方法はどのようなものか。 など

	学習内容と主な学習活動	支援及び指導上の留意点	具体的評価規準と評価方法等
導入 〇分			
展開 ① 〇分	ここに、生徒が取り組む課題などを記載する。		
まとめ 〇分			

授業見学シート

生徒の活動を見て、ココが…

すごい！

授業者：自分で評価していない部分再発見
 参観者：生徒の活動を促すヒントを得る

※ ねらいに沿ったどんな仕掛けが
 生徒の活動を促していたか

もったいない！

授業者：アドバイスを受け授業改善へ
 参観者：生徒の様子を見て対応を考える

※ こんな生徒の活動があった。
 →ねらい、ねらい以外

そうなんだ～

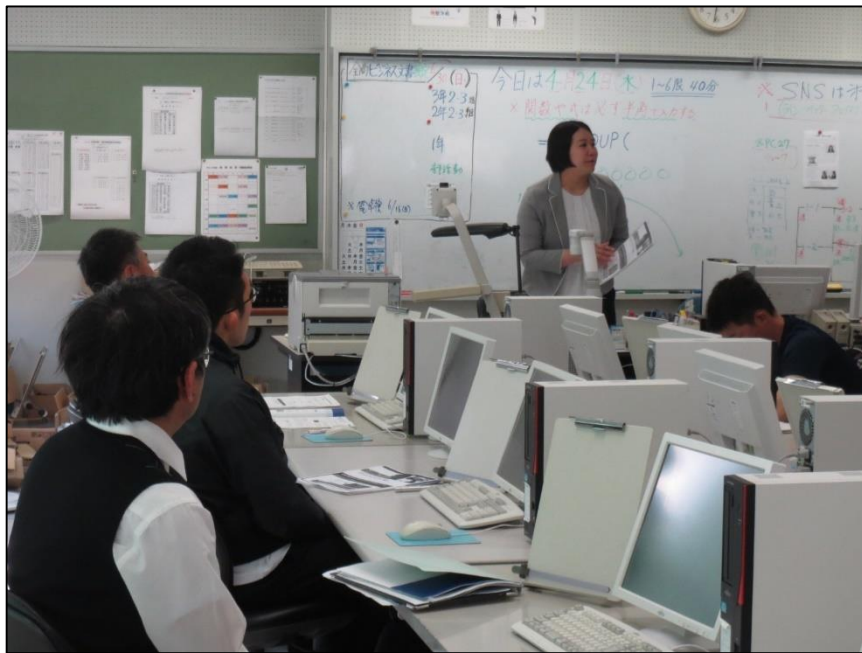
授業者・参観者：
 生徒の見方の変容
 自分の教科への応用

※ ねらい以外でこんなことも
 達成してた

自分の授業で使えそう

授業者・参観者：
 教科横断的な指導内容
 共通で可能な指導内容等

高校生のための学びの基礎診断



職員研修

- 学び直し
- 進学者補習
- 自己肯定感を育むための仕掛け

評価の在り方

- 学習評価とは
- 学習評価のポイント
- 演習(ルーブリック)



【職員の感想】

- ・評価項目を考えていくことは思いのほか難しい。
- ・「教科内の目線あわせ」の必要性を感じた。
- ・授業内における個人内評価をどのように見とり、授業改善に生かすかが大切。





文部科学省平成30～令和元年度委託事業
「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習・指導
方法の改善の推進」の実践研究報告

令和元年7月31日
群馬県立安中総合学園高等学校

本校の生徒の実態と課題

- 寝られる授業、寝られない授業というレベルで授業をとらえている
- 学習の動機付けが極端に弱い、学ぼうとしない
- 分数の計算ができない、地図を見ても北がどちらか分からない
- 快か不快か、好きか嫌いかのレベルで物事を判断する
- 快でつながる仲間なので、不快なことがあるとつながれなくなる
- 何かに反応し行動した時、仲間からマイナスのリアクションが怖い
- 自分の居場所がない、自分を見失いそうだと言う
- 家庭環境の厳しい者が少なくはない
- 約3割が一人親家庭

出来事

感覚的に
行動

トゲのある言動で
周囲を傷つけてしま
う

後で、言われ
て気づく



本校の取り組み概要

・家庭環境の厳しさに起因する自分の将来に肯定的な意識や積極的な姿勢を持ちにくい状況の対応



家庭科教育
ライフデザイン講座
の充実



・授業に消極的な構えの改善
・仲間とつながり支え合う姿
・主体的に学び基礎学力の定着を目指す

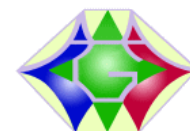


主体的・対話的で深い
協働的な学びの推進



指定事業拠点校としての具体的な取り組み内容

家庭科と総合的な学習の時間におけるライフデザイン学習を中心に、全教科の授業で、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から学習・指導方法の改善・研究を行い、生徒自身が課題を設定し主体的に学び、課題を解決できる思考力・判断力・表現力を育成する。



家庭科教育の充実 —ライフデザイン講座—

対象：生活文化系列（保育系）3年生

高校生のライフデザイン講座とは

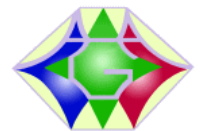
自分の将来を主体的に描き、具体化していく講座・授業

高校生のうち、3人に2人は「自分が何をしても物事は変わらない」と思い、生活してしまっています。これは勉強・授業や部活動はもちろん、家族や友人との関係、あるいは自分の将来にさえも、“無気力”を引き起こしています。

この講座では、「自分が主体的に動き描くことで、未来は変わるかもしれない」と思い、自分の将来を具体的にイメージし、価値観・行動変容に結び付くことをゴールとしています。

大切にしていること

- 1 ナナメの関係による場づくり
- 2 関係性を高めていくこと
- 3 内なる声を形にする機会



全教科でのALの視点から学習・指導方法の改善・研究

授業実践研究会・学年別研究授業・授業研究・講演会

1～4時間目 授業

(該当クラス以外は放課)

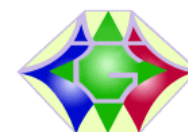
5時間目 学年別研究授業

6時間目 学年別研究協議(授業研究)

全体講演会 講師による講演会



教科の枠を越えた全校体制での授業改善が可能



本校の授業研究の在り方

生徒の活動を中心に授業を見る(See Think Wonder)

See

○ 何が見られましたか

↳ 生徒の表情・仕草を見る・発言を聴く 例:〇〇くんが、このときに寝はじめた

↳ 生徒同士、生徒と教師の関係をつかむ 例:〇〇くんの発言に、△△さんがこう反応した

Think

○ それについてどう考えましたか

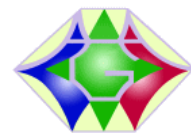
↳ 生徒の言動の感想を語る 例:〇〇くんがここで学びから逃避した理由は・・・。
: 〇〇くんのこの発言を聴いて、私はこう感じました。

Wonder

○ そこから何が類推できますか

↳ 授業中の活動と自分の実践を比較し考察する
例:〇〇さんの授業中の様子が、自分の授業中と違うのは・・・だからだと思う。

<授業の主役である生徒が、充実した学びをしていけるように>



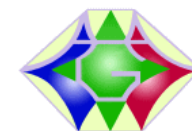
研究の成果①

(1) ライフデザイン講座

	そう思う
自分にとってよい経験もよくない経験も自分をつくる大切な経験と捉えられる	100%
今の自分を肯定的に受け止められる。	92
目の前の物事は自分で動けばよりよく変えられると思う。	100
チャレンジをして失敗してもやり直して前進させたいと思う。	92
自分の弱点を出して、人の助けを借りることも必要だと思う。	100
今の自分が好きだと思う	56

◎ ライフデザイン講座の結果より

- ・チャレンジの成功や失敗に関わらず、自分が主体的に行動することが重要であることを実感している生徒が多い。
- ・他者への関心と肯定感の向上が見られた。
- ・自己肯定感の向上が見られたが、「今の自分が好き」とは思っていない。



研究成果②

(2)全教科でのALの視点から学習・指導方法の改善・研究

◎授業アンケートの結果より	H30			H29			H28		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
①わかりやすい教材を使ったり、興味深い話をしたりするなど、授業を工夫している。(座学)	66 %	74	73	72	75	68	74	69	61
②一斉授業だけではなく、ペア学習やグループ学習で話し合ったりする活動を行っている。(座学)	63	64	72	69	61	50	69	50	50
③わかりやすい教材を使ったり、興味深い話をしたりするなど、授業を工夫している。(実習・実技)	—	63	84	—	76	90	—	78	66
④実習内容を一方的に説明し実施するだけでなく、生徒同士が実習内容について創意工夫する話し合いを行っている。(実習・実技)	—	61	81	—	80	83	—	69	64
⑤授業で学んだ内容を自分でもっと勉強したいと思うようになった。(実習・実技)	—	52	66	—	72	73	—	58	64

研究の成果③

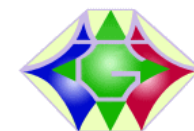
(2)全教科でのALの視点から学習・指導方法の改善・研究

◎授業アンケートの結果より

- ・①、③の結果より、わかりやすい教材や生徒の興味関心を引き立てる話題の提供等、授業を工夫していることがうかがえる。
- ・②、④の結果より3年間の取り組みを経て2、3年生でもペア学習やグループ学習に取り組みやすい環境が整いつつある。
- ・①、②1年生の結果はこれまでと異なり、結果が奮わなかった。次年度は授業実践研究会を通して教材の工夫やアクティブ・ラーニングの視点を伴った授業を参観する機会を増やし、職員の意識向上に努めたい。

◎外部の先生方からの意見より

- ・「グループワークでの役割分担、授業の流れやルールなどあらかじめ示し、取り組みやすい課題の用意など授業づくりの参考になった」という意見があった。
- ・「アクティブラーニング形式の授業により個人の考え、ペアで2人の考え、グループとしての多人数の考えにより自分自身での問題点の改善をしていた。」という意見があった。アクティブラーニング形式の授業を展開することの意図を感じていただいた。
- ・学年別研究協議会では「生徒の変容を見るという授業研究会に驚いた」「特定の生徒のほかの授業での様子を意見交換し、共通理解する良い場」という意見があり、本校の学年別研究協議会のねらいが来校者に伝わったと考える。



平成31年度・令和元年度の計画

1 学期

- ・4／2 新任者への研修会を実施
- ・4／22 職員会議にて事業説明
- ・6月～ 管理職による授業参観
- ・6／17(月) 授業実践研究会Ⅰ 学年別授業研究会・研究協議会
(国語科・家庭科・工業科)
- ・7／8(月) 授業実践研究会Ⅱ 学年別授業研究会・研究協議会

2 学期

- ・9月 授業研究月間
- ・9／20(金) 授業実践研究会Ⅲ 学年別授業研究会・研究協議会
- ・10月 1学年 キャリアベーシック 未来の教室の実施
- ・10月 先進校視察
- ・10／30(水) 授業実践研究会Ⅳ 学年別授業研究会・研究協議会
- ・12月 授業アンケートの実施
- ・12月 先進校視察報告会
- ・12月or1月 授業実践研究会Ⅴ 学年別授業研究会・研究協議会



(参考)平成30年度の取り組み

1 学期

- ・4／6 新任者への研修会を実施
- ・4／25 職員会議にて事業説明
- ・6月～ 管理職による授業参観
- ・6／18 授業実践研究会Ⅰ 学年別授業研究会・研究協議会(非公開)
(国語科・商業科・工業科)

2 学期

- ・8／30 校内研修(新学習指導要領に関するもの)
- ・9月 授業研究月間
- ・10／22 授業実践研究会Ⅱ 学年別授業研究会・研究協議会
(社会科・数学科・体育科)
- ・11月 1学年 キャリアベーシック 未来の教室の実施
- ・11月8、9日 先進校視察(滋賀県草津高校、彦根翔西館高等学校)
- ・12月 授業アンケートの実施
- ・12月3、4日 先進校視察(牛久市立下根中学校、東京大学附属中等教育学校)
- ・12月12日 授業実践研究会Ⅲ 学年別授業研究会・研究協議会
(理科・農業科・総合研究(ライフデザイン講座))
- ・12月18日 先進校視察報告会

